

令和7年度射水市中小企業・小規模企業振興会議 会議概要

【日 時】令和8年2月26日（木） 午前10時から

【場 所】射水市大島分庁舎 大会議室

【出席者】

会 長 塩見 一三男（富山大学地域連携戦略室 教授）

副会長 石灰 一友（射水商工会議所 副会頭）

委 員 池田 善揮（射水市商工会 副会長）

小杉 奈津子（射水商工会議所 女性会会長）

古森 恂子（射水市商工会 女性部長）

橋本 雅文（アイシン軽金属株式会社 取締役）

宮田 雅人（射水市地域振興会連合会 会長）

牧野 翔太郎（連合富山射水地区協議会 副議長）

泊 千穂子（高岡公共職業安定所 所長）

高橋 利幸（北陸銀行小杉支店 支店長）

野上 敏充（日本政策金融公庫 高岡支店長）

加藤 賢一（富山県立大学地域連携センター 産学官連携コーディネーター）

京角 輝彦（射水市中学校校長会 会長）

（欠席）

加藤 健（富山県新世紀産業機構 中小企業支援センター次長）

長慶 清（新湊信用金庫 本店営業部長）

（事務局）

射水市産業経済部長 塩谷 明永

産業経済部次長 福井 有希夫

産業経済部次長 盛光 寛人

商工企業立地課長 笠間 正和

商工企業立地課課長補佐 浅井 一政

商工企業立地課商工労政係長 大久保 亜紀子

商工企業立地課商工労政係主事 杉森 慶子

商工企業立地課商工労政係主事 高田 慶

射水商工会議所事務局長 向田 真理

射水市商工会事務局長 篠田 千春

【会議概要】

1 開会

2 議事説明事項（※項目毎に事務局説明のうえ、随時「3意見交換」を行う形で進行）

(1) 副会長選出

(2) 射水市ビジネス支援センターの設置

《事務局 資料説明》

（委員）

企業と学生とのマッチングイベントに対する参加企業募集はどのようにして行ったか。

（事務局）

試行的な取り組みとして実施したため、経営相談やイベントなどでセンターを利用いただいている企業に参加いただいた。

（委員）

次年度から大学生や企業の方々の利用を促すという点に関して、大学には就労をサポートするキャリアセンターがあるので、センターのPRなど情報共有を積極的に行うことで、学生に対して周知することができる。

（事務局）

今後情報共有を図ってまいりたい。

（委員）

キャリア進路相談会やキャリアコンサルタントによる相談の対象は、高校生や大学生など絞っているのか。また、次年度配置されるコミュニティマネージャーは常設か。そして、具体的な業務内容が決まっていれば教えてほしい。

（事務局）

キャリア進路相談会やキャリアコンサルタントによる相談は対象を特に絞っていない。また、次年度実施するコミュニティマネージャーは常駐とし、学生や企業とどのように連携を図っていくかについては、今後検討していくところである。

（委員）

開設して1年という中で実績をみると、コンスタントに利用されており、プッシュ

型支援と合わせて実施することで広がりを見せていると感じる。来月には金融機関と連携したセミナーの開催を予定しており、創業者や事業者に対して、金融面での支援を今後も協力して行ってまいりたい。

(委員)

開設して10か月の相談実績を市としてどう捉えているか。

(事務局)

相談件数については、徐々に増加しているが、センターとしてのあり方は開設当初から試行錯誤を繰り返しているところ。市内企業の皆様の声を聴きながら、今後、より活用していただけるよう努めてまいりたい。

(委員)

センターで行っている、販路拡大や新商品開発、起業・創業に関して、相談窓口として商工会議所や商工会でも実施している。既存の商工団体との差別化やセンターの重視するポイントがないと、企業にとって非常にわかりづらい面があると懸念している。この辺りをどう考えているか。

(事務局)

商工団体が今後も重要な相談窓口であることは十分認識している。その上で、センターは様々な分野の方々をつなぎ合わせて新たなものを生み出すことや違った視点からのアドバイスを行うこと、そして、起業・創業を行う学生への支援や学生との交流を行うことが他との違いと考えている。

(委員)

設置して10か月なので知名度の問題はあるにしても、スイッチイミズの目的がわかりにくく、企業から見ると何をやっているのかわかりづらい面がある。センターが重視しているところや方向性を発信していただきたい。

(事務局)

貴重なご意見として、検討してまいります。

(委員)

先日県立高校の志願倍率が発表されたが、県立・私立の区別なく、学生自身が学びたいことを学ぶという選択をする状況にある。そんな中、中学校においてもキャリア教育をどのように進めていくかということは課題の1つと捉えている。学習交流スペースでの事業では、高校生はどのくらい対象にしておられるか。また、県外の大学に

進学している学生とはどのくらいのかかわりがあるのか教えてほしい。

(事務局)

学習交流スペースは、現状としてはほぼ高校生の利用となっており、開催するイベントは高校生も対象としている。県外に進学している大学生の利用は現状としてはないが、今後利用を促していければと考えている。

(3) 令和7年度 主な施策の取組状況と目標値の達成状況

《事務局 資料説明》

(委員)

沖塚原企業団地の分譲率 64.3%とあるが、企業団地の分譲を今後も進めるのか。我々地域住民にすると企業団地というのは非常に遠い存在と感じている。

市で整備した企業団地においては、97.5%の分譲率でほぼ100%に近い状況で、リザーブ用地を確保しておく考えはないのか。一方、地域内への企業誘致も大切と考えるが、今後どのような考え方で取り組んでいくのか。

(事務局)

企業団地の整備については、地域経済の活性化、雇用の創出、税収の増加といった意味で今後も取り組んでいくべき重要な政策と考えている。将来を見据えて、今後は、これまで対象としている製造業や物流業に加えて、IT・情報系など小・中規模の企業を含めて検討していく必要がある。今年度実施した企業団地の適地調査についてもその点を含めて検討している。

また、企業団地が地域にとって遠い存在というお話につきましては、企業の考え方によるが、地域の皆さんを企業に招いて工場見学を通して企業活動を理解していただきたいと考える企業もある。機会をとらえて地域と企業が交流し、理解を広げていく取り組みは大切と考えている。

(委員)

地域と企業との交流が必要だと考えている。地元で年1回企業見学を実施している。地域が地元にある企業のことを知ることが、さらに家庭で子どもたちに伝わり、将来の選択肢の1つとなるような効果が出れば良いと考えている。

また、市内で4年制大学設立に向けた構想があり、その学長に就任される方を招いて講演会を開催した。その方の観点着眼点が我々とは全く異なり、射水市も自信をもっていいという認識を持った。きっと子どもたちや学生にもそう伝えてくれると感じた。だから、大学設立の取組と連携し、行政ともタイアップして、企業の皆さんとつ

ないでいけば、学生の地元就職につながると考える。

(委員)

成果指標と目標値の「女性の管理職比率」について、目標値の30%の根拠は何か。

(事務局)

国の第5次男女共同参画基本計画の目標値である。

(委員)

射水市内で就業されている女性の中で管理職を希望されている方がどの程度いらっしゃるのか。例えば、市役所の女性管理職の割合はどのくらいか。

都市部と地方では求めるものが違う傾向にあり、キャリアを求める女性は都市部で就職する傾向にあると思う。女性の立場から言うと、女性管理職の割合が上がることを求めているわけではなく、女性ということで希望するポストに着けないことがなくなることであって、最初から数字ありきではなく、このことに対して不満を感じている女性がどの程度いて、どこに原因があるのかを探してほしいと思う。そこで、女性が希望する働き方ができるよう、目標値をもう少し現実味のあるものに変えていただいたらよいのではないか。

(事務局)

市役所の女性管理職の割合は、令和7年4月1日現在で24.5%である。

委員ご発言のとおり、数字だけを求めるべきかについては、皆さんがそれぞれの想いで働いておられるので、希望する働き方をできる取り組みが一番大事と考えている。とはいえ、社会で女性の皆さんに活躍いただきたいという強い思いをもって目標値を設定していることはご理解いただきたい。

(委員)

管理職を望む女性が全員管理職となったときに、割合が30%に届くのかということと、例えば、50点しか取れない子どもに最初から100点を取れということのこと。目標値がありつつも、管理職を望まない女性の方々の働きやすい環境に配慮しながら施策を展開することが必要ではないか。女性等の多様な働き方支援事業など実施されているが、女性がどうしたら働きやすくなるかを考えて施策に取り組んでいただきたいと考える。

(事務局)

委員ご発言のとおり、希望する働き方ができる社会や、介護や子育てといった理由で時間の制約がある方でも働ける取組など皆さんが活躍できる事業を進めていくた

いと考えている。

(委 員)

ゆとりライフ互助会での手続きについて、親族の死亡に対する給付事業で戸籍謄本の提出が必要のため、申請に二の足を踏むケースがある。もう少し要件を緩和し、利用しやすくしてほしい。拡充をする上で、より良い方向に緩和してほしいという要望です。

(委 員)

ゆとりライフ互助会というのは、会員の交流といった取り組みは行っているのか。

(事務局)

ボウリング大会やリフレッシュツアーなど会員の交流を図る事業を実施している。

(委 員)

事業がマンネリ化しているのではないか。

(事務局)

総会でご意見をいただき、今年度より新たにインフルエンザ接種費用や人間ドック費用の助成を実施している。会員の交流事業についてもコロナ禍で実施できない時期があったが、復活させている。会員のニーズを踏まえて検討してまいりたい。

(委 員)

成果指標と目標値について、女性管理職比率30%という国の基準は大変難しいと思う。射水市独自で目標値があってもいいと思う。指標の在り方を含めてご検討いただきたい。

(4) 令和8年度 射水市の中小企業振興施策

《事務局 資料説明》

(委 員)

制度融資の保証料の助成に対する予算が増額されているのは非常にいい話と感じている。取引先のお客様でも資材の高騰やインフレ、加えて賃上げの要望もあり、なかなか価格転嫁できないと利益が生まれず、キャッシュフローを確保できないと非常に苦慮されているお客様も増えている。特に中小企業小規模の事業者はかなりなやんでいると思うので、手厚い支援を継続して実施してほしい。

(委員)

中小企業・小規模企業と大企業との連携として協力できることがあれば行いたい。市を通じてコミュニケーションをしていただきながら、例えば、工場見学など、できることを対応していきたい。

(委員)

地域でイベントなど事業を開催する際に、予算面の課題がある。市でも考慮していただけるとありがたい。

(委員)

女性等の多様な働き方支援事業において、参加された方の中で実際に就職につながった方はどのくらいいるのか。

(事務局)

企業からヒアリングを行う中で、雇用希望の企業と1名マッチングがあった。

(委員)

昨今企業としても人材不足がかなり深刻化しているので、女性に限らず、障がい者の方など働きやすい職場環境、フレックスな働き方といった面でも企業もしっかりバックアップしていく必要があると考える。市としてもそういった取組について働きかけをしていただきたい。

(委員)

中小零細企業の方々への支援活動がメインとなることから、市の中小企業振興施策については、非常に注目している。事業者の減少を食い止めるためには、新規開業を増やしていくことや事業承継に対し、お役に立てるところは協力してまいりたい。

3 意見交換

特になし

4 その他

5 閉会

午前 11 時 32 分終了